

顎関節症と関係する病気（その3）

前回のコラムで書き忘れた事を書きます。

健康な人は顎関節のメス側の骨である側頭骨の左右の乳様突起は頭蓋骨の耳たぶの下辺りの頭蓋骨の下縁に足寄りに向かって小豆位の突起です。

健康な人は左右の突起が前後・上下に揃い、そして口を開けて下顎を左右にゆっくり大きく動かしますと、この左右の乳様突起が互違いに上下に動くものです。

又あお向けの格好で自転車のペダルをゆっくりこぐ格好しますと、この左右の乳様突起が互違いに上下に動くものです。

ところがこの様にして乳様突起が動かないタイプは病的なタイプです。

例をあげますと複数の薬で自分の体に合っているならば、薬を自分の体に接しているだけで、左右の足の長さ、左右の乳様突起は左右共に揃っているものです。

ところが薬の効能が自分の体に強すぎますと左足が短かく、又乳様突起は病気の程度によって違いますが、神経伝達不能により反応しない場合もあります。薬が自分の体に効能が強すぎる場合、左の乳様突起は上にあがるものです。

そして別の薬で自分の体に毒の場合は右足が短く、右の乳様突起が上にあがるものです。

この2種類の薬を服用しますと、左右の乳様突起が左右共に上にあがってしまうものです。

この状態で下顎をゆっくり左右に大きく動かしても、左右の足、左右の乳様突起はビックとも動かないものです。

この時の首の骨は後方湾曲（健康な人は生理的湾曲、つまり前方湾曲をしています）の上ですべての首の骨、背骨は前方にズレ、各骨がおとし穴に落ち込む格好で身動きがとれない様な状態に陥ちいる為に骨に付着している筋肉も必要以上に引張られ、緊張をおこし、そして全身の血流が悪く、内臓、各関節に異常をおこし、体は常にダルイという事になります。さらに左右の乳様突起が極限に近いところ迄上にあがり過ぎますと、首の骨、背骨も極限近く迄前方にズレ全身の血流が悪く、半年から3年の間で命を落とす確率が高くなるものです（誰もが歯で死ぬとは思ってはいないものです）

この場合の治療は左右の乳様突起を下へもって来なければならぬものです。

この状態ですと特に重病の人は命が助かるという確率は非常に少ないものです。

逆に重病の人でも、下顎を左右にゆっくりと大きく動かし、左右の乳様突起、左右の足の長さが互違いに上下に動けば血流が正常に流れている事です。

これで命は助かる確率は高くなるものです。

（重病の人、特に癌の人に触れているだけエネルギーがとられて、1、2時間は仕事が出来ないので、余り歓迎はしない）

全身の血流が正常に流れている人に自分の体に毒物の反応が出る薬を手につか又はポケット

に入れて足踏みさせますと右足が重くなるものです。逆に薬が効きすぎますと左足が重くなるものです。毒物の薬と効きすぎる薬を同時に持たせた上で足踏みしますと、全身がダルク又おしりが下へ引張られる様な感じがするものです。

今度は片側の乳様突起だけが上にあがった場合、その時の首の骨は直となっているものです。

そして首の骨、背骨は部分的に前方にズレをおこしているものです。

前方にズレをおこしている骨から神経が走っているものですから、ズレにより神経が異常をおこし、関係のある筋肉、関節、内臓に異常をおこすものです。

片側の乳様突起が上にあがった体の片側半分の頭から足先迄に大なり小なりの異常をおこすものです。

片側の頭痛、難聴、眼の異常、首・肩の異常、そしてその側の肩が上にあがり、片側の内臓、腰椎ヘルニア、股関節、片足が重い、足首、足の裏、足の甲、足の指、その他片側に集中するものです、又杖を持って歩いている人は、片側の乳様突起が上にあがっている方です。乳様突起が下がっている側の歯を高くしますとその側の乳様突起は上にあがり、左右共に乳様突起が上にあがり、その度合が大きければ大きい程体全体の不調が増すものです。治療としては上にあがっている側の乳様突起を下へ戻さなければならぬものです。

そして、乳様突起が上に上がっている側の方が歯の咬み合せが高く下に下がっている方が歯の噛み合せが低いものです。

(但し前寄りか後寄りかは別として)

話は又元に戻りますが、2つのリモコンスイッチを左右別々のポケットに入れますと左右の乳様突起が上にあがり首の骨は逆カーブになるものです、又口の中に人工歯のインプラントを一本でも埋め込んでいますと埋め込んでいるのが左右関係なしに左右の乳様突起は左右共に上にあがり、首の骨は逆カーブをおこし、全身の血流が悪く、全身の体の不調をおこすものです。

先程薬の事を申し上げましたが、薬と言っても漢方薬もあります、又健康食品、又ドリンク剤も同じです。

自分の体に合っているかです。

又、外的障害を受けますと、首の骨は逆カーブをおこすものです。又猛暑も外的障害です、首骨、背骨がすべてが前方ズレをおこすものです。

首の骨の上から2番、3番目が前方にズレますと、不眠となります。

口の中に入れるマウスピースも同じ様に外的障害をおこすものです。

左右の乳様突起が上にあがり、首の骨、背骨は前方にズレ、全身の血流が悪くなるものです。

口の中に入れるマウスピースを咬ませますと、左右の乳様突起である側頭骨が上に上がるだけでなく、その上の頭頂骨と側頭骨との隙間が狭くなり、頭のテッペンにある左右の2つの頭頂骨との真中を前後に走っている矢状縫合という骨と骨との隙間がギューと圧縮された状態になり、又おでこの前頭骨、後寄りの後頭骨及び頭蓋骨全体の骨と骨との隙間が狭くなり、正常ならば心臓の様に各骨がパクパクと動いている様なものが動きが悪くなり、血流も悪くなるものです。その為

に上に上がった乳様突起を必ず下に下げ、さらに全体の歯の咬み合わせのバランス、つまり前後、左右、対角線上のバランスをとらねばならないものです。

マウスピースには利点も欠点もあるものです。

その為にマウスピースと乳様突起をさげる頭蓋骨全体のバランスをとる事と並用しなければならないものです。